

Remarks by Mr. Ibai Amezttoy, CEO,

Hello, everyone. My name is Ibai Amezttoy.

I was born in Spain. I had this dream of making video games, so life brought me to Japan, and Japan brought me to Osaka, where I now live and run a videogame company.

Previously in Tokyo I faced only obstacles. So, almost broke, I moved to Osaka ten years ago. ... it was a completely different place, like no other city I had known. The first thing they tell you when you get there is: “大丈夫やで、にいちゃん”, which means “it’s gonna be OK, dude”. And that spirit rules the city in every aspect.

For instance, on my first day in Osaka, I was with a real estate agent, looking for an office. I was a foreigner with no guarantor and almost no money. Then the agent gave me the magic words: “大丈夫やで、にいちゃん. It’s gonna be OK.”

So, paperwork not yet even signed, he trusted me, and handed me the keys of the office.

Next day, in that same office, there was no furniture. And then a man came in – he was the building caretaker. "Hey, you guys moving in?" he asked. "You've got no furniture? I have some, which was left behind by previous tenants. You can take as many chairs and desks as you need". And he gave us everything free of charge!

But it is in hardship that you see what really matters, and the biggest proof I have for the spirit of Osaka is this.

After the triple disaster of earthquake, tsunami and nuclear failure hit the country, my company was in trouble. International clients stopped their assignments in Japan, workers were fleeing the country... we were doomed.

Then, a client from Osaka called me, and asked if everything was OK, and, without me having requested that, he gave us all the remaining payments for that whole year in advance, just because he knew we were in trouble. It's not very common to see this in the corporate world, is it? I was moved into tears because they literally had saved my company.

Now, I can tell you, Osaka doesn't care about who you are. Osaka cares about how you are. Osaka taught me that if you work hard and care for the people around you, as they like to say: 大丈夫やで. "Everything is gonna be OK".

I began my company alone by myself, and now we are a family of 120 professionals from 26 countries. Absolutely none of them wants to leave Osaka or Kansai.

I guarantee, if you give a chance to Osaka, Osaka will be your home... forever.

Now, Michiko will join us once again. She said that for her, Osaka opened a lot of doors, including one for music. So sing along with her as she plays...

イバイ・アメストイ・(株)アクティブゲーミングメディア CEO、プレゼンテーション  
(原本英語)

こんにちは、みなさん。イバイ・アメストイと申します。

生まれはスペインです。ビデオゲームを作りたいという夢をもっておりまして、夢を追いかけて生きているうち日本に渡って、日本に住んでいるうち、大阪に行き着きました。いまは大阪に住んで、ビデオゲームの会社を切り盛りしています。

その前、東京にいたときは、そこらちゅう障害だらけといった感じで、ほとんど参った、と。で、大阪に移ることにしたのが10年前です。

行ってみたら、まるっきり違うところでした。それまでに知っていた街と、似ても似つきませんでした。

まあ行ってごらんになるとわかりますが、最初に聞くのは、「大丈夫やで、にいちゃん」です。it's gonna be OK, dude というわけです。

この感じ、このスピリットが、大阪という土地を、あらゆる側面で満たしているんです。

ひとつ紹介すると、大阪第一日目のことなのですが、事務所を見つけないといけなかったので、不動産屋さんに行きました。

ガイジンでしょ、保証人はいないし、実はおカネもほとんどない。そしたらその不動産屋さんから、例のマジック・ワードですよ、「大丈夫やで、にいちゃん」。

というわけで、書類にハンコを押すのもそこそこに、この人はわたしを信用して、オフィスの鍵を渡してくれたんです。

次の日でした。そのオフィスに行きました。什器は、なしです。そしたら一人、男の人がどっかから現れて、いえ、ビルの管理人さんだったんですが、「お引っ越しですか」と。

「家具はあるんかいな」と聞いて、前の住人が置いてったのがいくらかあるから、椅子でも机でも、好きなだけ持ってつたらええ、と言うではありませんか。で、実際その管理人さんは、僕らになにもかもタダでくれたんです。

でも、本当に大事なことが身に染みるというのは、やはり困難に直面した時ですね。大阪スピリットの、これこそが最大の証拠だという話があります。

地震、津波、原発事故のトリプル災害が起きた後、ウチの会社はとたんに調子が悪くなりました。海外の顧客はばたっと注文をくねなくなるわ、国外に脱出する従業員も出るわで、万事休すか、と。

そのときです。大阪の、とあるお客さんから、電話がきた。どないや、なんとかなつとるかいな。——訊くんです。そうしたら、僕から頼んだんじゃないんですよ、そうじゃないのに、このお客さん、年間代金まるごと全額、前払いしてくれたんです。僕らが困るといふそれだけの理由で。

ね、こんなこと、商売の世界でざらにあることじゃないですよ。わたし、もう泣けてきましてね。文字通り、これでわたしの会社は救われたんです。

ですからこう申し上げたい。

あなたが、どこの誰かということなんか、大阪は気にしません。でもね、あんさん大丈夫なんかいな、元気なんかということは、大阪は、気にかけてくれる。

僕が大阪から教わったことというのは、いっしょうけんめい働いて、まわりの人らのことを親身に気にかけてたら、大阪でみながいのように、「大丈夫やで」、ほんまに、ということでした。

一人だけで始めた会社でしたが、いまではその道のプロたち 120 人を雇っていて、彼らの出身国は 26 カ国にまたがります。そしてこの中の誰一人として、まったく誰一人も、大阪・関西から出ていくつもりなんかありません。

大阪を、ちょっと試してみてください。そしてもう、大阪はあなたのホームになる、永遠のふるさとになること請け合いです。

さあ、理子さんにもう一度ご登場いただきましょう。大阪は、理子さんにいくつもの扉を開けたって、そういう話でしたよね。その一つが、音楽の扉だったと。

歌いましょう。いまから理子さんの演奏です。